

実生活に結びつく読書教育

1 はじめに

（1）本研究の概要

費やした時間に対し、どの程度の満足感が得られるかが重視される昨今、時間がかかりタイムパフォーマンスが悪い読書から離れる大人が増加している。しかし、子供たちの読書傾向は決して悪い結果ではない。全国学校図書館協議会が行っている2024年の「学校読書調査」によると、中学生が1ヶ月に読んだ本の冊数は調査が開始された1954年から最多であった。読書離れが進む大人が増えているなか、学校は本に触れ、読書をする場や機会になっていると考えられる。歳を重ねるほどに読書から遠ざかる現代においても、子供たちが将来完全に読書から離れることがないよう、意義を理解し本に親しむ基盤を作っていく必要があると考える。

学習指導要領では「本や文章などは、書き手がそれぞれの立場や考え方から、自分の思いや考えなどを書き表したもの」「自ら進んで読書をし、読書を通して人生を豊かにしようとする態度を養うために、国語科の学習が読書活動に結び付くよう発達の段階に応じて系統的に指導することが求められる」と書かれている。自ら読書に親しむ態度を養うため、今研究では実生活に結びつく読書教育とした。

（2）生徒の実態

本校では朝読書を週4日行い、国語科に限らず理科や社会など様々な教科で学校図書館を利用した授業が展開されている。中2では昨年度の夏休み課題でポップの作成を出し、一人ひとりが好きな本を紹介した。また、中1の「蜘蛛の糸」の授業時には近代文学紹介を作成し、一人一冊近代文学を読んで紹介するプリントを作成した。ポップ、近代文学紹介のプリントを基に、学校図書館司書と相談のうえ数枚を選んだ。選ばれたものは学校図書館に展示され、それらを見に学校図書館に訪れる生徒も少なくない。これらの授業に加えて毎年ビブリオバトルを行い、本や活字に触れる機会を設けているが、活字を読むことに対して抵抗感を示す生徒も少なくない。ビブリオバトルでは小説に限らず絵本や図鑑など様々なものを紹介させている。また、学校図書館司書とクラスの実態を伝えたうえでおすすめの本を紹介してもらったりするなどの工夫も行った。

2 実践内容

(1) 教材名

①「タオル」 重松清 (教育出版 2年) ② ビブリオバトル

(2) 単元の目標

- ・本や文章には様々な立場や考え方が描かれていることを知り、自分の考えを広げたり深めたりする読書に生かすこと。〔知識及び技能〕 (3) エ
- ・目的に応じて複数の情報を整理しながら適切な情報を得たり、登場人物の言動の意味などについて考えたりして、内容を解釈すること。〔思考力・判断力・表現力等〕 C イ
- ・文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすること。〔思考力・判断力・表現力等〕 C オ

(3) 本単元における言語活動

- ①「タオル」 提示された問い合わせに対し、本文をもとに解決する。
- ②「ビブリオバトル」 好きな本を発表とディスカッションを通して紹介する。

(4) 単元の評価

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
本や文章には様々な立場や考え方方が描かれていることを知り、自分の考えを広げたり深めたりする読書に生かしている。((3)エ)	目的に応じて複数の情報を整理しながら適切な情報を得たり、登場人物の言動の意味などについて考えたりして、内容を解釈している。(C(1)イ)	進んで文章を読み取り、これまでの学習を踏まえて、他者が読みたくなるような本の紹介をしている。

(5) 指導と評価の計画 (全 7 時間)

時	主な学習活動	学習内容	☆指導上の留意点
1	「タオル」を読み、登場人物や本文の内容を捉える。	○登場人物 ○人物像	☆範読を聞きながら、登場人物には印をつけるよう指示をする。

2 3 4	本文をもとに「タオル」に関する問い合わせ、内容を読み深める。	○登場人物の心情や指示語が示していること ○比喩が表現しているもの	☆四人班での活動とし、班員一人一人に役割を設けることでグループワークの円滑な進行を促す。 ☆各班でまとめたものを最後全体の前で発表・共有させる。
5	「タオル」を通して感じた本を読む面白さをもとに、ビブリオバトルのため本の要約や原稿作成を行う。	○紹介する本のあらすじの要約 ○出典	☆学校図書館を活用し、様々な本の中から紹介したい本を選ばせる。 ☆ビブリオバトルの動画を見せ、紹介するときに入れると良い内容・ポイントを考えさせる。
6 7	ビブリオバトルを通して、自身のおすすめの本を紹介する。他者のおすすめの本を知る。	○班員の紹介する本 ○紹介するときの工夫	☆複数の発表を踏まえて、改めて紹介するときに入れると良い内容・ポイントを考えさせる。 ☆紹介した本の中で読みたくなつたものを書かせる。

3 成果と課題

成果

- ・「タオル」での問題解決型学習は自ら教科書を開き、線を引いたり文と文を囲って結び付けたりなど主体的に読み深めている生徒が多かった。また、グループでの対話を通し協同的な学びの場面が見られた。
- ・「タオル」やビブリオバトルを通して、どこに着目すると読書が面白いのか、自分なりに考えている生徒の姿が見られた。
- ・「去年のビブリオバトルで友人が紹介していた本が面白そうだったから読んだ」という生徒や、活動の翌週に紹介された本を購入して読んでいる生徒がいた。

課題

- ・ビブリオバトルを行ううちに、意識が「話すこと」に向いてしまい、本来の目的である「読むこと」から離れてしまうことがあった。
- ・練習のときに動画を撮らせて自分なりに確認し、再考して本番を迎えるなど主体的に発表に向かう時間を取るべきだった。また、発表原稿を考える際にPC、生成AIは使用させなかった。「書く」が指導事項ではないことや他者の「読む」を意識させることを鑑みると、PCやAIも学習ツールの一つとして使用させてもよかつたのではないか。

